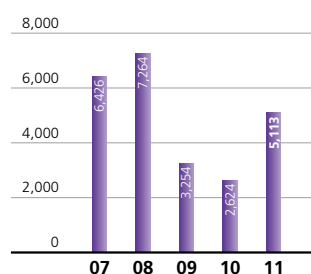


部門別営業概況および事業展望

半導体製造装置

半導体製造装置売上高
(億円)

2011年3月期概況

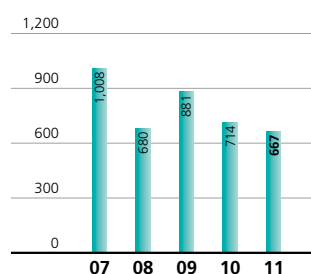
2011年3月期の世界経済は、各国の景気対策などの下支えもあり、全体としては緩やかな回復基調となりました。半導体市場は、主にスマートフォン、タブレットなどのモバイル機器向けの需要にけん引され急速に拡大しました。それに伴い、各半導体メーカーの設備投資も積極的に行われ、特に前工程の設備投資は大幅に増加しました。

当部門の売上高は、各半導体メーカーの旺盛な微細化投資および能力増強投資を背景に、前期比94.9%増加の5,113億円となりました。

地域別では、NANDフラッシュメモリーやロジックメーカーの投資を中心に、全地域とも大幅な売上増加となりました。

製品別では、コータ/デベロッパ「CLEAN TRACK™ LITHIUS Pro™ V」、プラズマエッチング装置「Tactras™ Vigus™」、熱処理成膜装置「TELINDY PLUS™」などの最新モデルの拡販に積極的に取り組んだ結果、いずれの装置分野も大幅な売上増加となりました。また、新プラズマエッチング装置「Tactras™ RL5A™ Etch」などの新製品の投入も売上に寄与しました。

FPD/PV製造装置

FPD/PV製造装置売上高
(億円)

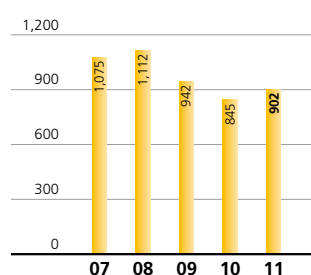
2011年3月期概況

2011年3月期の液晶パネル市場は、液晶テレビに使われる大型パネルが調整局面を迎えた一方、スマートフォン、タブレットの旺盛な需要に支えられ、中・小型パネルは総じて堅調に推移しました。それに伴い、液晶パネルメーカーの設備投資も、中国、韓国を中心に底堅く推移しました。太陽電池製造装置市場は、単結晶シリコン型太陽電池などが拡大に向かう一方、当社が参入する薄膜シリコン型市場は未だ顕著な伸びを示すにはいたりませんでした。

当部門の売上高は、第6世代以上の装置需要に支えられ、FPD製造装置売上はほぼ前期と同水準となりましたが、太陽電池製造装置売上が前期比で減少したことにより、前期比6.5%減少の667億円となりました。

地域別の売上高では、大型パネル生産基地になりつつある中国が前期比171%増、韓国が124%増、台湾が29%増と高い伸びを示しましたが、日本は前期比66%減少の146億円に留まる結果となりました。

電子部品・情報通信機器*

電子部品・情報通信機器売上高
(億円)

2011年3月期概況

当部門の売上のほぼ9割は国内売上です。国内のエレクトロニクス市場を見ると、期前半は堅調に推移したものの、期後半は景気刺激策の一部終了や民生機器等の買い替え需要に一服感が生まれ、減速傾向を示す展開となりました。

当部門の売上高は、前期比6.8%増加の902億円となりました。薄型テレビやデジタル家電等の民生機器向け半導体製品の販売は年明け以降低水準で推移する傾向となりましたが、医療機器、半導体製造装置及びFA機器等の産業機器向け半導体製品の販売は順調に推移し、高付加価値商品であるアナログICやカスタムICの売上が増加しました。また、IT投資への需要回復が遅れ、コンピュータ・ネットワーク関連機器の製品販売が伸び悩んだものの、ソフトウェア販売、保守サービスビジネスが堅調に推移しました。

* 本事業は東京エレクトロデバイス株式会社がオペレーションを行っています。

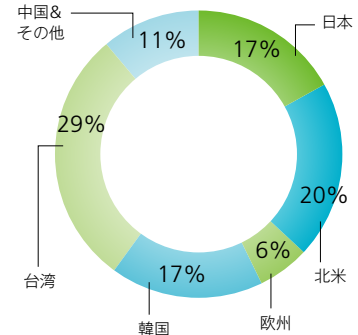
事業展望

ワイヤレスブロードバンド、モバイルアプリケーションの普及により、スマートフォンやタブレットの需要は引き続き強く、半導体市場はこうした機器の世界的広がりを背景に今後も拡大を続けていきます。その拡大を支える半導体製造装置市場も、多少の波はあるものの、高い成長を続けていくものと思われます。

当社は、こうした市場環境を事業拡大につなげるべく、今後の重点課題として、既存製品分野の徹底的強化と新規事業の立ち上げに注力していきます。既存分野では、特に市場規模が大きく、高い成長が見込めるエッチング装置、洗浄装置分野でのポジションの向上を狙い、顧客ニーズに基づく新製品を随時投入していきます。新規技術分野では、半導体の高集積化に向けた新技術である3次元チップ積層技術における製品の拡充、新プラズマ源を用いたRLSA™装置のアプリケーションの拡大、テストコスト削減の要求に応える新システムの開発等を加速させていきます。

また、中古機、改造、保守契約等への積極展開によりフィールドソリューション・ビジネスを強化し、安定的な収益基盤の構築を図っていきます。

地域別売上構成比



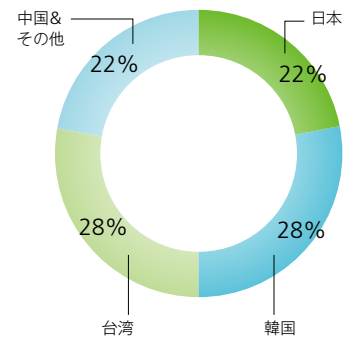
事業展望

ディスプレイの用途が拡大しています。TV向けの大型ディスプレイに加えて、最近では、スマートフォン、タブレット用の中小型タッチパネルが急伸びしており、近未来にはデジタルサイネージ（電子看板）、電子ペーパーなどが一般化する時代が来ると予想されています。今後は中国を中心に展開する大型ディスプレイ向け投資に加えて、中小型ディスプレイ向けの新規投資が相次ぐことが予想されます。

当社は、さらなる高速化、高精細化に対応する差別化された製品を市場投入する一方、激化する競争の中で一層のコストダウンを図っていきます。また、ポスト液晶として台頭する有機ELディスプレイ向け製造装置の開発を加速させ、近い将来、市場に投入していきます。

当社が現在参入する薄膜シリコン太陽電池製造装置市場はまだ黎明期ですが、世界的に再生可能エネルギーへの転換が進む中、技術革新により、中長期的には大きな成長が見込まれる市場です。当社はシャープ株式会社、スイス、エリコンソーラー社と進める2事業に加え、当社独自の技術開発も行っています。茨城県つくば市に来春設立予定の新研究開発拠点にて高効率化技術開発を促進させ、早期の事業立ち上げを目指していきます。

地域別売上構成比



事業展望

半導体市場は東日本大震災の影響で2011年の前半は不透明感が残るものの、全体としては底堅く推移する見込みです。また、これまで低調であったIT投資も、年後半に向けて回復基調に転じると予測されています。このような事業環境の中、半導体商社としての販売体制、サポート力の強化、海外事業の促進に加え、自社製品開発への一層の注力により自社ブランド品「inrevium™ (インレビウム)」のアジア地域での販売を拡大し、収益の向上を図っていきます。

地域別売上構成比

